

令和元年度 企画展

安藤直次入城四百年記念 安藤帯刀家と安藤小兵衛家

主 催 田辺歴史民俗資料館
会 期 令和元年 11 月 9 日（土）～12 月 8 日（日）
会 場 田辺歴史民俗資料館 企画展示室（田辺市文化交流センター（たなべる）2 階）
入館者 410 名

会場の様子



展示解説：11 月 16 日と 12 月 8 日に展示解説を行いました。

田辺市立田辺歴史民俗資料館 企画展

安藤直次入城四百年記念

安藤帯刀家と安藤小兵衛家



令和元年 11 月 9 日 (土) ~ 12 月 8 日 (日)

田辺歴史民俗資料館

今からちょうど四百年前の元和五年（1619）、それまで駿河・遠江を領地としていた徳川家康十男の頼宣が、兄である三男秀忠、当時の徳川幕府二代目将軍の命によって紀伊・伊勢五十五万五千石へ転封となり、これに伴って現在の静岡県掛川市周辺を治めていた、頼宣の付家老・安藤直次が紀伊田辺三万八千八百石へと移ることになりました。その四百周年を記念して、安藤直次・その直系として江戸時代を通じて受け継いでいった安藤帯刀（たてわき）家・田辺領において安藤帯刀家を支えた安藤小兵衛家、これらを中心に紹介します。

1 安藤直次

安藤直次は、織田信長・徳川家康連合軍が初めて大規模な戦闘を行なったとされる姉川の戦いが初陣で、それ以後、数々の合戦で武功を挙げてきた武将とされています。また、徳川家康が大御所政治を始めた際、成瀬正成・本多正純とともにその側近として支えた一人とされていて、政治的にも優れた吏僚として評価されることの多い人物です。それが、家康が九男・義直、十男・頼宣、十一男・頼房の行く末を案じて、彼らへの直属となる家臣を探した際、誰もが家康の家臣であることから離れることを嫌って断るなか、成瀬正成と安藤直次の二人のみ、相談して家康に申し出、家康は大喜びで二人を義直と頼宣に付けることにし、しかもその時、家康は「安藤直次は申し分のない人物だから頼宣は直次の言う通りにしていれば良い」とだけ申し付けた、という逸話が残っています。

2 安藤帯刀家

その安藤直次から以降、江戸時代を十六代にわたって紀伊徳川家の付家老を務めたのが、安藤帯刀家です。歴代は表の通りですが、特に注意しなければならないのは、付家老として徳川頼宣に付いた安藤直次・水野重仲の二人は、江戸にいて幕府との間の折衝役を担った水野重仲と、和歌山に在国して領地を治めることを担当した安藤直次、という役割分担があったことです。尾張の成瀬と竹腰が交替で江戸へ詰めたのと異なり、江戸との距離から役割を分担した二人では、安藤直次は和歌山へ詰めて統治に専念し、時には幕府への弁明のために江戸へも赴いたこともあり、自分の領地である田辺を訪ねることはほとんどありませんでした。この役割分担はその後も代々受け継がれ、幕末の水野忠央（ただなか）と安藤直裕による「付家老専権体制」が築かれるまで続きます。

安藤帯刀家歴代

		(別名など)	院号
初代	直次	帯刀	藤巖院
二代	直治	飛驒守	嶺藤院
三代	義門	帯刀	亮藤院
四代	直清		藤瓔院
五代	直名	采女	寶藤院
六代	陳武	帯刀長	浄岳院
七代	陳定	式部	暁応院
八代	雄能	彦兵衛	大悟院
九代	次由	帯刀	興仁院
十代	寛長	帯刀	誠瑞院
十一代	次猷	直時	藤寛院
十二代	道紀	直矢	観妙院
十三代	直與		了義院
十四代	直則		藤岳院
十五代	直馨		俊了院
十六代	直裕	直承・竹堂	—
十七代	直行	墨洲	—

3 安藤小兵衛家

歴代の安藤帯刀家が和歌山に常駐していたため、自分の領地である田辺については、直次の従弟・直隆を祖とする安藤小兵衛家はその統治に活躍しました。歴代は表の通りですが、帯刀家に比して、まだ研究がそれほど進んでいないため、分からないことが多いのです。なお、帯刀家の安藤直裕が司令官の役を担わされた幕長戦争の際には、一緒に従軍してこれを支えたことをうかがわせる資料が残されています。

安藤小兵衛家歴代

		(別名など)
初代	直隆	初め杉浦小平次 後、安藤と改め小兵衛
二代	忠直	初め金三郎 後、小兵衛 隠居休甫
三代	忠貞	初め金三郎 後、小兵衛 隠居利白
四代	忠次	初め金三郎 後、小兵衛 隠居弥惣
五代	忠徹	初め金三郎 忠利 後、小兵衛
六代	忠興	初め久須作 欣三郎 忠英 忠昌 後、小兵衛 隠居任存
七代	忠義	初め元次郎 域 後、小兵衛
八代	忠光	初め万吉 富五郎 後、小兵衛
九代	效忠	初め八七郎 司馬之助 後、小兵衛
十代	忠可	司馬之助 後、小兵衛
十一代	衷	初め民三郎 忠茂 忠和 小兵衛 小平



4 軍制改革

軍制改革と言えば、幕末～明治初期に紀伊藩でこれを進めたカール・カップンによる改革が有名ですが、田辺藩でも短期間であり、またその後の徴兵制によって一般によく知られることもありませんでしたが、確かに軍制改革を行なっていることをうかがわせる資料が存在します。特に銃器を新たに購入して、これに習熟することを目的として、その銃器の特徴を詳しく調べた資料が残されています。ごくその一部を今回、紹介させていただきます。

5 直次の神格化

1の部分で安藤帯刀家の祖・直次について紹介していますが、明治維新以後、安藤家の元家臣を中心としてこの直次を神格化する動きがあり、結果として明治十九年（1886）に藤巖神社が創建されます。その一連の動きの中において、特に目立ったものを資料で紹介させていただきます。

6 「入国三百年記念祭」

大正八年（1919）、和歌山で徳川頼宣の入国三百年を記念する祭が行なわれ、これに対して田辺でも安藤直次の三百年祭が計画され、帯刀家の直系の子孫が招待されています。記念品の類も作られているので、それらを含めて紹介します。



展示目録

番号	資料名称	所蔵者
1 安藤直次		
1	安藤直次肖像画	鬪雞神社
2	安藤直次書状	安藤小兵衛家
3	安藤直次肖像画下絵	安藤小兵衛家
4	「藤巖公」遺愛碑（拓本）	安藤小兵衛家
5	「直次公御伝記」	安藤小兵衛家
6	「藤巖公伝記」	田辺市立図書館
2 安藤帯刀家		
7	安藤直治肖像画	安藤小兵衛家
8	帯刀家家紋入り烏帽子入れ	鬪雞神社
9	帯刀家家紋入り馬胴飾り	安藤小兵衛家
10	帯刀家家紋入り軒丸瓦	田辺歴史民俗資料館
11	安藤直裕水墨画	鬪雞神社
12	安藤直行写真・神輿寄進状	鬪雞神社
3 安藤小兵衛家		
13	安藤表肖像画	安藤小兵衛家
14	小兵衛家旗の家紋に関する書	安藤小兵衛家
15	矢立てと矢、弓立てと弓	安藤小兵衛家
16	大刀、刀立て	安藤小兵衛家
17	「田邊藩幕末出征ニ関スル書類」	安藤小兵衛家
18	「大参事」任命書	安藤小兵衛家
4 軍制改革		
19	鉄砲買い換えに関する書類（控え）	安藤小兵衛家
20	「スベンセル旋條銃功用書抜萃」	安藤小兵衛家
5 直次の神格化		
21	安藤直裕による承諾書の写し	安藤小兵衛家
22	「藤巖公御絵伝」	鬪雞神社
6 「入国三百年記念祭」		
23	「入国三百年記念祭」盃	安藤小兵衛家
24	「田辺入国三百年祭」メダル	安藤小兵衛家
25	「祝御入国三百年祭」写真	個人